

✠ 便利な存在から命を繋ぐ存在へ ✠

1927年、米国テキサス州の「サウスランド・アイス社」の氷製造店で働いていたアンクル・ジョニーが、氷の需要が高まる夏限定で「週7日・1日16時間」と営業時間を延長し、パン・卵・牛乳なども販売するようになったのが、「コンビニエンスストア」の始まりである(図1)。

冷蔵庫が一般的でなかった当時、日曜日、夜など他店が閉まっている時間にも営業していた。

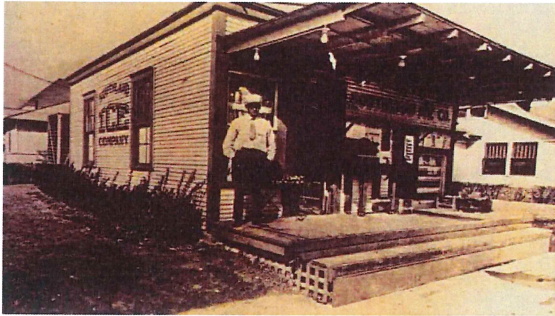


図1. アンクル・ジョニーの「氷販売店」

1933年、禁酒法が廃止され、ビールなどのアルコールも販売すると店が急成長したため、創設者がジョニーのアイデアに目を付け、他の地域でも販売を始めると10年間で店舗数は3倍になり、シンボルとして店舗に立てたトーテム・ポールにより店舗は「Totem Stores」と呼ばれるようになった(図2)。

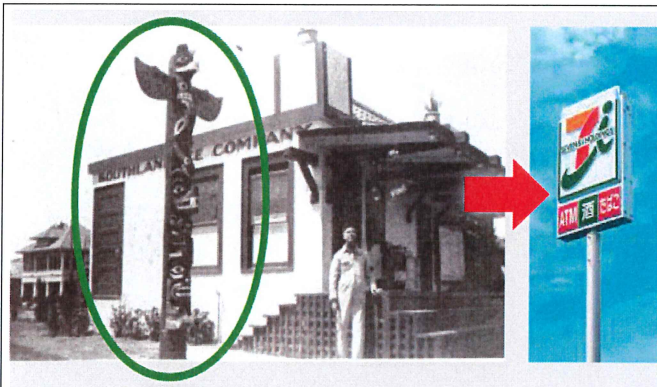


図2. トーテム・ポールのある「トーテムストア」

1946年、開店時間をAM7:00～PM11:00としたため、店舗名を「Seven Eleven」とした。

1950年、テキサスを越え、フロリダ・バージニア・メリーゴランド・ペンシルベニアにも店舗は広がり、One-Stop Shopping “必要なモノが全て揃い” ガソリンも含まれた(図3)。

1939年には、オハイオ州で牛乳販売業をしていたジェームズ・ローソンが「ローソン・ミルク社」を設立し牛乳の他に、日用品なども販売する小型店「ローソン」をアメリカ北東部に展開した。ローソンのマークが牛乳缶なのは牛乳販売業だったことに因んでいる(図4)。



図3. ガソリンスタンドに併設されたコンビニ



図4. オハイオ州 LAWSON の1号店

なお、米国のローソンは「DairyMart」になった後、「サークルK」へ転換された。

米国では、ガソリンスタンドに併設された形態の店舗が多く、日本のコンビニでは販売のないエンジンオイルや自動車用品も販売しており、自動車整備もできるスタッフやピットを保有し、パンク修理やエンジンオイル交換もできる店舗もある。国土が広大なため、長距離を移動する車が人家のない地域で立ち往生することは生死に関わるからである。そのため、経営が石油関連会社のこともあり、全米第3位のシェア「Speedway」の親会社は「Marathon Petroleum」だったが、2020年、Seven&i Holdings が米国のシェア拡大のため、2兆3000億円で買収した。

日本でコンビニが誕生したのは、1969年、食品系小売業のマイショップ第1号店で、大阪に開店した「マミィ豊中店」(図5)である。大手スーパーでも同時期に



図5. マイショップ「マミィ豊中店」

米国のコンビニと提携して、日本におけるフランチャイズ方式のチェーン展開を始めた。

1974年、「Seven Eleven」はイトーヨーカ堂が米国サウスランド社とライセンス契約を締結したことで誕生し、東京の豊洲に1号店がオープンした(図6)。同じく、1975年に設立した「LAWSON」は米国Consolidated Foods社と契約、大阪に1号店「桜塚店」(図7)をオープンした。また、西友も「FamilyMart」の展開を始めた。



図6. セブンイレブン豊洲1号店



図7. ローソン桜塚1号店

「コンビニエンスストア」は食料品を中心に、日用雑貨、ATM、マルチメディア端末なども設置し、様々な要求をサポートする小型店舗であり、現在の定義は①飲食料品の販売、②セルフサービス方式、③売場面積が30m²以上250m²未満となっている。

過去にはアルコールやタバコなどを販売していない店舗もあったが、酒税法などが改定され、規制が緩和された。当初、コンビニで“おにぎり”は1日3個しか売れなかったが、今や人気商品となっている(図8)。



図8. コンビニの「おにぎり」



図9. コンビニの人気商品ランキング

現在、コンビニの人気ランキングは、①お弁当②おにぎり③ホットスナック④冷凍食品⑤カップ麺⑥スイーツ⑦サンドイッチ⑧アイス⑨コーヒー⑩サラダとなっているが、日進月歩、新商品が開発され1年に70%の商品が入れ替わっている(図9)。

コンビニには、ATM、コピー機、マルチメディア端末などが設置されている店舗もあり、各種証明書なども簡単に取得できる(図10)。



図10. ATM・コピー機・マルチメディア端末

最近、コンビニでは処方箋の要らない市販薬品が購入できるようになったため、常備の薬がなかったときにも安心である(図11)。



図11. コンビニで購入できる市販薬品

日本のコンビニには自動車用品や自動車整備などの設置はないが、日本には地震・台風・洪水などの災害が多く、日本のコンビニは日常生活のために“重宝・便利”な存在だけでなく、命の危険を伴う災害時の復興支援に不可欠な生命線となったのである(図12)。



図12. 災害時に生命線となる「コンビニ」